

# わらしべちょうじゃ

日本むかしばなし  
いもとようこ 文・絵





むかし、あるところにたろうというやさしくて、  
はたらきもののわかものがいました。

たろうはまいにち、

あさからばんまでいっしょうけんめいはたらいていますが、  
くらはちっともよくなりません。

あるひ、たろうはかんのんさまにおねがいをしました。

「かんのんさま、おしえてください。

わたしはどうしたらいいのでしょう？」

たろうがひっぴでらひひひひと、

かんのんさまのこえがきこえてきました。

「たろう、よくきくがよい。

このおひんをどい、

さいしょにこにしたものをたいせつにするのじゃ。

きくとよろこぶがあるべしめいひひひ」

「はい。かんのんさまわかりました。

ありがとうございませす」

たろうはかんのんさまにおれいをいって、

おどろをでていきました。





たろうがおぶつのかいだんを  
おりたとき……

おもいっきり、  
ころんでしまいました。

「いたたたたた……」

た〜ん  
ーた〜ん





おきあがるとたろうは、

てに「ほんのわらしべをにぎっていました。

「これが、このわらしべ」ほんが、

かんのんさまがいらっおられたものかなあ？」

たろうはわらしべをしげしげと  
みつめていました。





うきなへ ちんちんしんじゅ  
「うきの あきが じまじまい」  
たろうのかおのまわりを、  
ぶんぶんとうるまへ じまじまいます。

たろうはあぶをしかまえて、  
わらしべのキミにむすびつけました。  
あぶ、わらしべのキミ、

ぶんぶん  
ぶんぶん

じまじまのうき。



「ほつや、ひとさまのものをほしがってはいけません」  
おかあさんがなだめても、  
ほつやはますますおおきなこえでさげびます。

ほつやがさげびます。  
あぶをむすびつけたわらしべをゆびさして、  
たろうが、てにもっている

ほつらよ——！」

ほつらよ——

「あつ、あれがほつらよ！  
かあちゃん、あれがほつらよ——





「よかったらさしあげましょう」  
たろうはあぶをむすんだわらしべを、  
ほっやにあげました。  
ほっやはおおよろいびです。

「じいさんせんじい」  
じいさんもあじがじいじからます。  
よかったら、  
これをめしあがってください」



ほっやのおかさんは  
おれいにと  
おおきなみかんを三つ  
たろうにわたしました。





たろうがみかんをかかえてあるらいていぐと、  
きのねせとで、

くるしそつたうずくまってる

むすめさんがいました。

「どうなつたのですか？」

たろうがこえをかけるよ、

「のぶがかわらへ

あるけなくなつてしまいました。

どうかにみずをくむとじろは

ありませんか」

とききました。

「いのちかくにいどはありません。

よかつたら、このみかんをたべてください」

たろうは、みかんをむすめさんにあげました。

むすめさんはたろうからもらつたみかんを、

おいしそうにたべました。

